

レコード不具合発生時の手引き

ウルフパック・ジャパン株式会社

目次

不具合申告時のご注意事項	P1
レコード盤の不具合	P2
レーベルの不具合	P12
カラーレコードの発色効果	P24

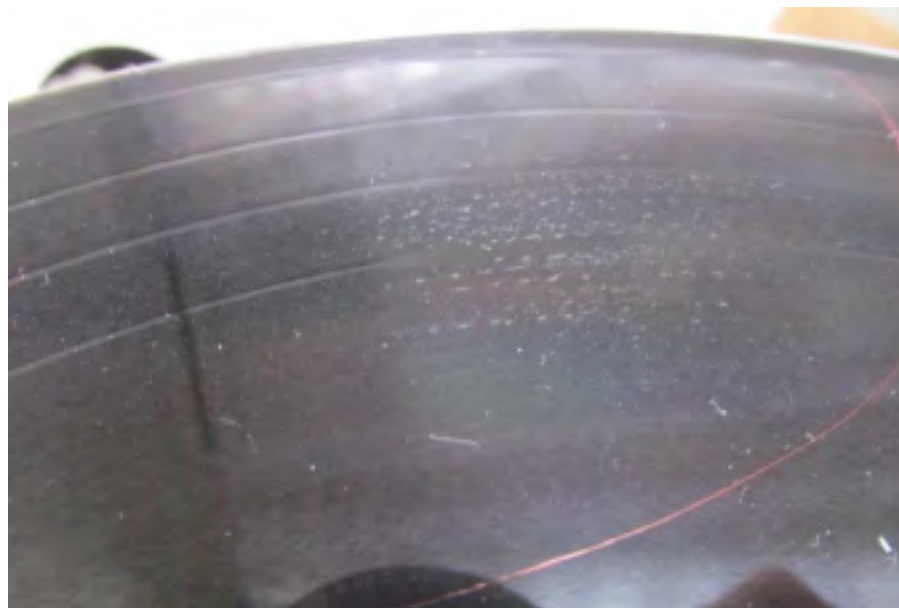
不具合申告時のご注意事項

- ・商品に不備がある場合、納品日より7日以内にお申し出ください。弊社に非が認められた場合のみ対応いたします。また、納品日より7日を過ぎたお申し出に関しては一切責任を負いかねます。
- ・再プレスに関して印刷機やプレス機の状況により、以前と同じ仕上がりにならない場合がございます。予めご了承ください。
- ・レーベル両面の向きは製造上揃えることはできませんので、ご注意ください。

1. レコード盤の不具合

1-1. スティッチング

外観と音質面から検出できる不具合です。レコードに反射して見える小さな銀色の点が、目に見えるようにまとまっています。プレス時にレコードが適切に取り外されなかったことが原因です。



1-2. ノンフィル

レコードに反射して見える銀色の線が生じ、細かいくぼみの集まりを作っています。レコードの溝がコピーされておらず、溝の上部が欠けています。通常、レコードの溝の端（リードイン、リードアウト）に現れ、音質に影響を与える場合があります。

音質に影響が及んでいない場合は、クレームの対象とはなりません。



1-3. スクラッチ (スタンパーの破損によるもの)

一つの特定の箇所に視認可能な傷が現れます。プレス時にスタンパーが破損したことが原因です。

クレーム非対象

音質に影響が及ぶことはありません。

細い線状の傷がレコードの表面、特に溝のない部分や内周の無音部分に現れます。長さ20mm、幅が0.5mmを超えるものでなければ対象とはなりません。



クレーム対象

音質に影響を及ぼす傷となります。傷の長さが20mm、幅が0.5mmを超える場合はクレームの対象となります。



1-4. スクラッチ (不適切な取り扱いで生じたもの)

レコード表面に擦り傷が現れます。主に輸送時に起こりやすいです。

表面の傷は使用するインナースリーブの種類にも影響を受けやすく、適切なものでない場合、レコードに損傷をもたらす恐れがあります。

対策：表面の小さな傷から保護する基本的な方法は、紙の内袋 (インナースリーブ) で包装することです。

必ず、インナースリーブとジャケット (もしくはディスコバッグ) で包装してください。カーボン紙やアートペーパーなどの素材で梱包することは避けてください。レコードに細かい傷を生じる恐れがあります。

クレーム非対象

音質に影響が及ぶことはありません。
細い線がレコードの表面、特に溝のない部分や内周の無音部分に現れます。長さ20mm、幅が0.5mmを超えるものがクレームの対象となります。



クレーム対象

音質に影響を及ぼす傷となります。傷の長さが20mm、幅が0.5mmを超える場合はクレームの対象となります。



1-5. コールドセンター

プレス時の加熱が不適切であったためにレコードの中心が厚くなりすぎる場合があります。また逆に、過冷却により中心の穴が小さくなる場合があります。

どのような場合でもクレームの対象とはなりません。



1-6. 汚れなどの付着物

レコード盤に、突起状の付着物や目に見えるほどの紙の残骸が付着している場合があります。汚れたプレス材（紙の焦げた部分など）の処理過程で生じます。

どのような場合でもクレームの対象とはなりません。



1-7. レコードの反り (ワープ)

高い温度での長時間の保存や、長い期間斜めに立てかけるなどした場合、反りが発生しやすくなります。カラーインカラー、A サイド / B サイド、ハーフアンドハーフといったスペシャルカラー盤は、使用される材質が異なるため反りが発生しやすくなります。

反りによってレコードの再生に影響が出る場合、あるいは反りが2mmを超えた場合はクレーム対象となります (ピクチャーレコードの場合は5mmを超えた場合)。レコードを平らな面に置いて計測してください。

※反りが2mm以下、あるいはレコード再生に針跳びがない等影響がない場合はクレーム却下となります。



1-8. シミ状の汚れ

レコードの素材に、余計な成分(多くの場合黒色の素材)が混入してしまうことです。黒を中心とした目に見える点状の汚れと、その他の汚れに分類されます。

クレーム非対象

小さな汚れ：全表面から比べ、レコード盤のカラーと明らかに違う色の範囲が6mmを超えていない汚れ
大きな汚れ：総面積が350mm²を超えず、同じ色合いだが異なる強度でつけられた指紋や汚れなど
※上記の「全表面」とは、レーベルまで含めたレコード全面を指します。



クレーム対象

小さな汚れ：総面積が6mm²を超える範囲の汚れ
大きな汚れ：総面積が350mm²を超える範囲の汚れやしみ



1-9. レコードのカラーがカラーチャートに対応していない

ゴールド、ブロンズ、シルバーのメタリック単色のレコードの場合、顔料の組成によって色が不均一に反映される場合があります。特に音溝の無いエリアでは、レコード上に色の波形が生じ、異なる色合いのレリーフとなることがあります。この現象によって録音や音質が影響を受けることはありません。これらはレコードの特性によるもので、クレームの対象にはなりません。

クレーム非対象

PANTONE サンプラーの1度以内の色偏差。



クレーム対象

色偏差が PANTONE サンプラーの1度を超えている。



1-10. 気泡の発生

気泡は通常、スプラッター盤の製造工程において、プレスされた塩化ビニールの変形が不十分である場合に発生します。レコード盤表面に現れ、音質的な問題を引き起こすリスクがあります。

気泡が盤面より大きく出っ張っている場合は、いかなる場合もクレーム対象となります。



2. レーベルの不具合

2-1. レーベルカットのずれ

レーベルのシートが、稀にカッティング途中でずれる場合があります。

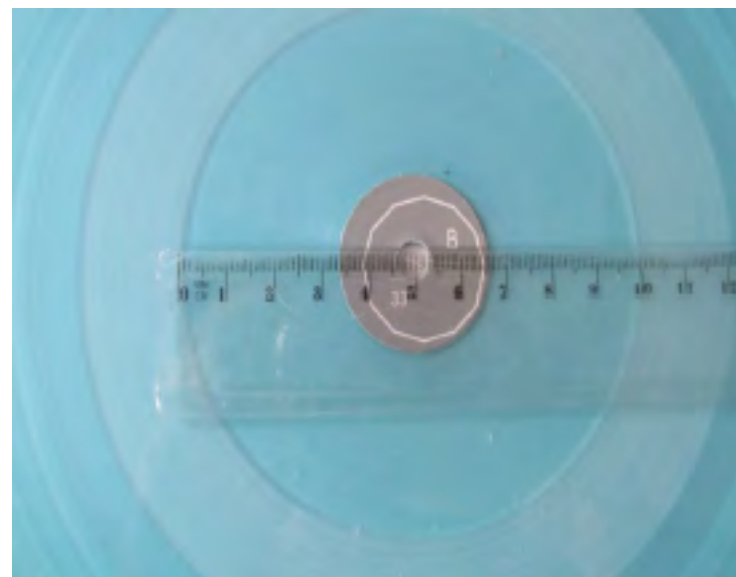
クレーム非対象

レーベルのテキストが裁断されない状態で $\pm 2\text{mm}$ ずれている。



クレーム対象

裁断が $\pm 2\text{mm}$ 以上ずれている。
もしくはレーベルのテキストがカットされている。



2-2. レーベルの色変化

全てのレーベルは、プレス工程において余分な水分を取り除き、気泡が入り込むのを防ぐために、高温で乾燥にかけられます。その際、レーベルが色変化を起こす場合があります。この現象は明るい色や、PMS カラーにおいて顕著にみられます。

クレーム非対象（以下は全ての色変化を示すものではありません）



2-3. レーベルの取り違い

レーベルが入稿されたものと一致しない場合、異なるレーベルが用いられているか、各面のレーベルが入れ替わっていることがあります。

クレームの対象となります。



2-4. ダブルレーベル

レーベルが全面にわたって二重になっています。
クレームの対象となります。



2-5. レーベルの割れ・ずれ

レーベルの割れは多くの場合、 HALF / HALF、3色カラー、スプラッター、カラー in カラー、A サイド / B サイドといったスペシャルカラー盤で発生します。プレス中に予期しない張力が用紙にかかることで、割れが発生することがあります。スペシャルカラー盤においては、組み合わせる色によってそれぞれ特性の異なる材質が用いられるためです。

クレーム非対象

主にカラーレコードにおけるヘアライン程度のヒビ。テキストは判読可能。



クレーム対象

レーベルのヒビからレコード盤面が顕になっている。テキストが判読できない。

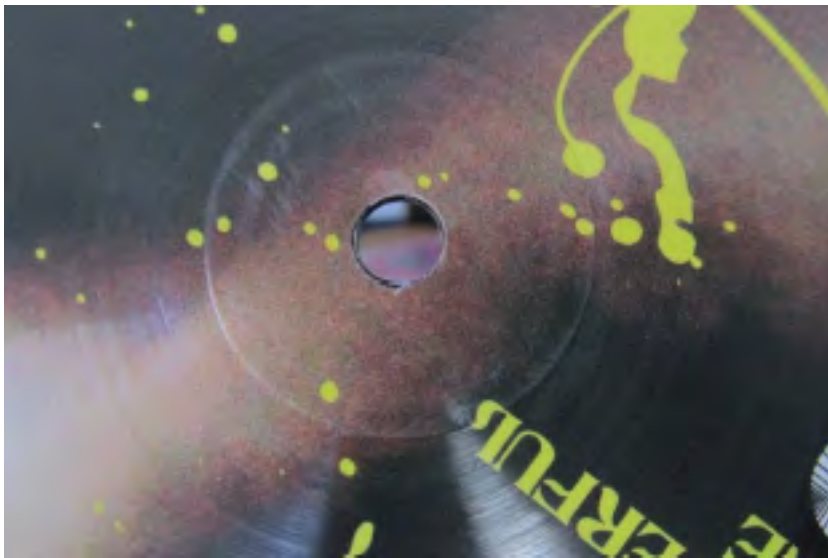


2-6. レーベル面の気泡の発生（ピクチャーレコード）

乾燥が不十分な色部分が、稀にプレス途中にスタンパーに付着する場合があります。そういった場合にプレス機を開くと、カラーがちぎれてしまったり、紙の層が割れてしまったりして、気泡のような膨れが発生することがあります。

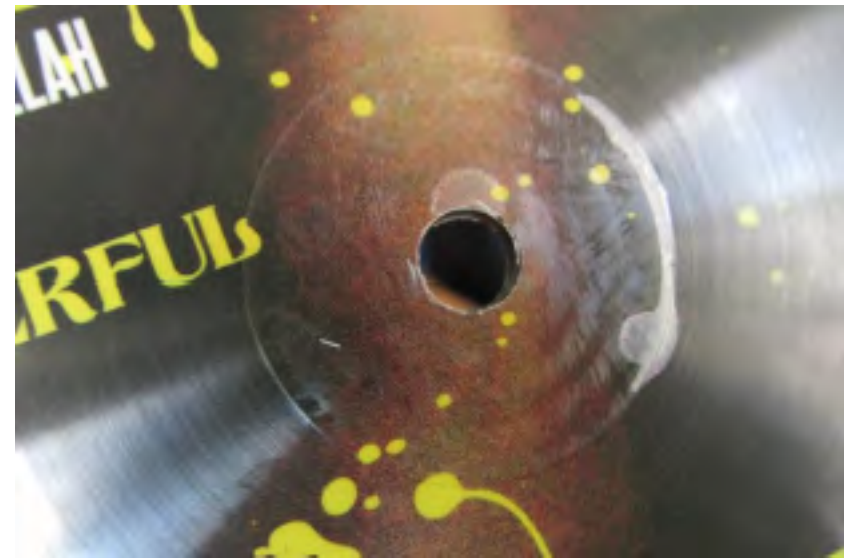
クレーム非対象

気泡部分の面積が100 mm²を超えない。センターホールの近くにできる。



クレーム対象

気泡部分の面積が100 mm²を超えている。センターホールより外側にできる。



2-7. レーベル面の気泡の発生（通常盤 / カラー盤レコード）

乾燥が不十分な色部分が、稀にプレス途中にスタンパーに付着する場合があります。そういった場合にプレス機を開くと、カラーがちぎれてしまったり、紙の層が割れてしまったりして、気泡のような膨れが発生することがあります。

クレーム非対象

気泡部分の面積が 100 mm²を超えない。



クレーム対象

気泡部分の面積が 100 mm²を超えている。

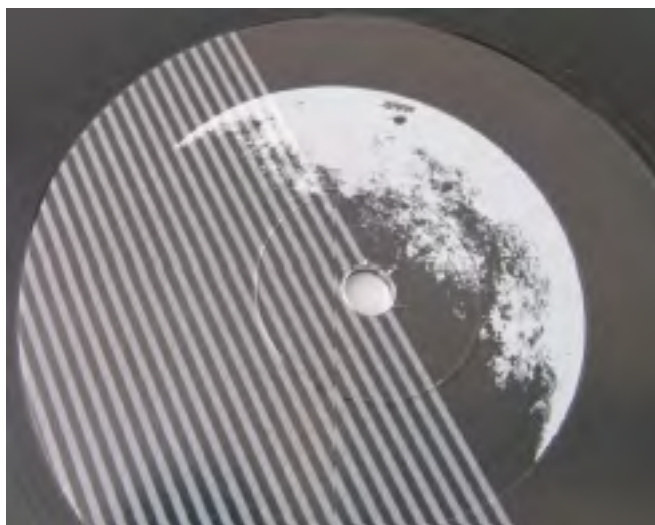


2-8. レーベルの破れ

プレス機でレコードにレーベルを貼り付ける際、稀にレーベルに破れが生じることがあります。

クレーム非対象

破れがヘアライン程度。上の層の紙が破れていない。破れの大きさが中心から測って最大5mm。



クレーム対象

用紙の上の印刷層が破れており、下の層の白い部分が剥き出しになっている。

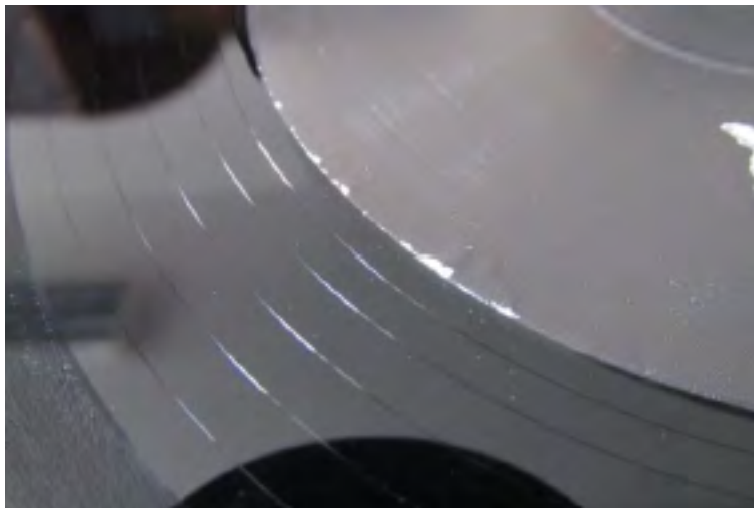


2-9. レーベルの色部分の剥がれ

乾燥が不十分な色部分が、稀にプレス途中にスタンパーに付着する場合があります。そういった場合にプレス機を開くと、カラーがちぎれてしまう場合があります。

クレーム非対象

レーベルの端で破れた色部分が長さ 30mm を超えていない。テキストが判読できる。



クレーム対象

端で破れた色部分が長さ 30mm を超えている。テキストが判読できない、あるいは消失している。



2-10. レーベル上に斑点が生じる

スプラッターレコードに稀に生じる不具合です。スプラッターカラーを作る粒状の材料が、プレス途中でレーベルに入り込むことで生じます。

クレーム非対象

斑点の大きさが 100 mm²を超えない (スポットの大きさの合計がレーベルの表面積 1% を超えない)。文字が判読可能。



クレーム対象

全ての斑点の大きさの合計が 100 mm²を超える。テキストが判読できない。



2-11. レーベルの擦れ

レーベルがプレス機から離される際に、不適切な取り扱いがあった場合に生じます。または輸送時の擦れにより起こることもあります。

クレーム非対象

用紙の表面の層がダメージを受けていない。影響を受けたレーベルの総数がプレス数全体の10%を超えていない。



クレーム対象

用紙の表面の層がダメージを受けている。



2-12. レーベルの汚れ

この汚れは、手での取り扱い中、またはレコードの包装中に発生する恐れがあります。
汚れの総面積が100 mm²を超えず、レーベルの中心にしか見られない場合にはクレームの対象とはなりません。



3. カラーレコードの発色効果

3-1. スプラッターレコード

より多くのスプラッターカラーを用いたからといって、その全てがはっきり見えるとは限りません。ブラックと非クリア系カラーはベースカラーとして用いるとスプラッターカラーを吸収してしまい、結果としてスプラッター効果が現れにくくなります。

さらに、非クリア系カラーをベースカラーとして用い、クリア系カラーをスプラッターカラーとして合わせてしまうと、さらに効果が現れにくくなるばかりか、場合によっては全く見えなくなってしまいます。

高いコントラストを得るために、ベースにはクリア系カラーを用いることをお勧めします。現れるスプラッター効果の量は明確に示すことはできません。非推奨の色の組み合わせによって上手く発色しなかった場合、クレーム対象とはなりません。

通常の発色

ベース：クリア系カラー

スプラッター：非クリア系カラー



上手く発色しない組み合わせ

ベース：ソリッドパープル

スプラッター：ソリッドグリーン



3-2. A サイド / B サイドレコード

推奨される組み合わせは、非クリア系カラーとコントラストカラーの組み合わせです。暗い非クリア系カラーと明るいクリア系カラーを用いると、効果が見えにくくなります。

通常の発色

ブラック × ソリッドグリーン



上手く発色しない組合せ

ブラック × ソリッドレッド



3-3. カラーインカラーレコード

このタイプのレコードは、小さな塩化ビニールの塊を大きな塩化ビニールの塊に押し込んでプレス製造します。小さな非クリア系カラーの塊と大きなクリア系カラーの塊を用いると、色の境界がはっきり浮かび上がります。

コントラスト色を用い、大きな塩化ビニールの塊に明るいクリア系カラー、小さな塊に非クリア系の暗いカラーを用いることをお勧めします。反対に用いることはできません。両方の塊が非クリア系カラーである場合、色がお互いに混ざり合い、最終的な効果はむしろ A サイド / B サイドレコードの発色効果に近くなります。

通常の発色

クリアオレンジ × ソリッドグリーン



上手く発色しない組合せ

ゴールド × ブラック



3-4. ハーフ & ハーフレコード

このタイプのレコードは、2つの塩化ビニールの塊がお互い隣同士に並べられてプレス製造されます。コントラスト色を用いた場合、片方の色がもう片方に綺麗に繋がらず、汚れて見える場合があります。非クリア系の2色、あるいはクリア系の2色を用いるのがお勧めです。稀にレーベルにヘアラインができたり、色の境目でレーベルが縮んでしまうリスクがあります。

通常の色

ソリッドオレンジ × ソリッドレッド



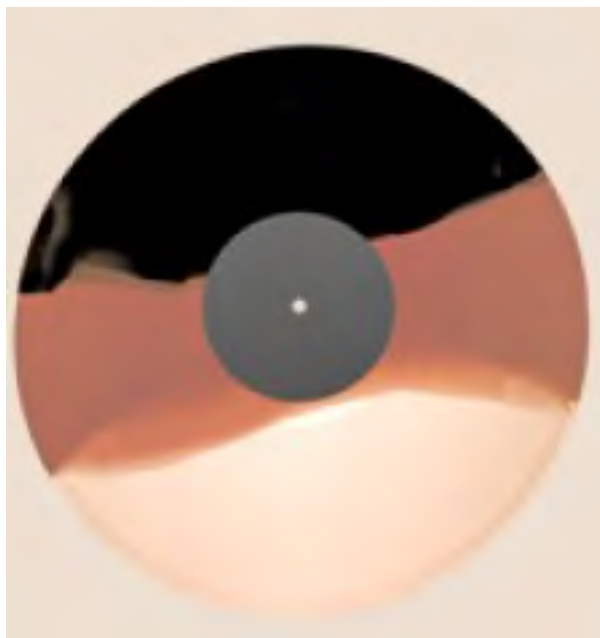
3-5. スリーカラーレコード (ストライプ)

このタイプのレコードは、3つの塩化ビニールの塊が隣同士に並べられてプレスされます。コントラスト色を用いると、他の色との境目を汚してしまう恐れがあります。クリア系カラーと非クリア系カラーの両方を用いて組み合わせることができます。

稀にレーベルにヘアラインが起きたり、色の境目でレーベルが縮んでしまうリスクがあります。この場合レーベルが破れていたり、判読不能でない限りクレームの対象とはなりません。

通常の発色

ブラック × ソリッドブラウン × クリア



3-6. スリーカラーレコード (120°セグメント)

このタイプのレコードは、3つの塩化ビニールの塊が隣同士に並べられてプレスされます。コントラスト色を用いると、他の色との境目を汚してしまう恐れがあります。クリア系カラーと非クリア系カラーの両方を用いて組み合わせることができます。

稀にレーベルにヘアラインができたり、色の境目でレーベルが縮んでしまうリスクがあります。この場合レーベルが破れていたり、判読不能でない限りクレームの対象とはなりません。

通常の発色

ソリッドブルー × クリアレッド × クリアホワイト



3-7. クラウドレコード

クラウドエフェクトは透明感があり、ベールや曇り空のような印象を与えることができます。1色のベースカラーと2色の補色を用います。1色目の補色はレコード全体の色を決定し、2色目の補色は盤の一部を彩る粒状の色を決定します。

2色目の補色は、1色目の補色と一致していなければなりません。



3-8. ギャラクシーレコード

2色で構成され、マーブルレコードに似た効果を発します。クリア系カラーと非クリア系カラーを問わず使用できます。ただし、クリア系の2色の組み合わせは、効果が薄れる場合があります。



3-9. グローインザダークレコード

暗闇で光る特殊な素材のレコードで、グリーンのみのご提供となります。明るい場所では無色ですのでご注意ください。

光に当てると、夜光顔料の性質に起因する色こぼれが見つかる場合がありますが、これはクレームの対象とはなりません。



3-10. マーブルレコード

レコードにマーブル模様を施した発色効果です。ベースカラーは必ずクリア系カラーを、マーブルカラーは必ず暗い非クリア系カラー、できれば黒を選びます。効果の現れ方はそれぞれのレコードによって違います。

通常の色

クリア × ブラック



通常の色

クリアグリーン × ブラック



3-11. ピクチャーレコード

このタイプのレコードは、通常センターホールがやや変形しており、他の仕様のレコードよりも反りが発生しやすくなっています。10インチと12インチのレコードでは5mm、7インチのレコードでは3mmを超える反りがある場合のみ、クレームの対象としております。反りの測定方法は、標準的なレコード盤と同じです。

ピクチャーディスクでは、稀に汚れ等の不具合がある場合があります。ただし文字が判読可能で、デザインが著しく変形していない限り、クレームの対象とはなりません。

また、ピクチャーディスクは、専用の特殊な素材でプレス製造を行っているため、特にノイズや帯電のリスクが高くなり、音質が劣化しやすくなっています。これはクレームの対象とはなりません。クラシックなどの静かなパートの多い音楽は、ピクチャーディスクに収録することをお勧めしません。



3-12. シェイプレコード

シェイプレコードは、多くの幾何学的な形のものを製造することができます。形はお客様の提出するドローイングやデザインによって決定されます。

シェイプレコードのフォーマットは黒盤 / カラー盤、10インチと12インチの通常盤 / 重量盤で対応可能です。



3-13. シェイプドピクチャーレコード

この仕様のレコードではノイズや帯電のリスクが高まりやすく、音質が劣化する場合があります。そのためクラシック音楽や静かなパートの多い音楽には適しません。

また、反りが起こりやすいことにご注意ください。

適切なデザイン



適切でないデザイン

